

埼玉県立総合教育センター江南支所（行田市）は、県内の特別支援学校の生徒が農業に就労する際のノウハウを優しく紹介した学習支援プログラム（手引き）を作成した。農業に興味を持つ障がい者に適切な仕事を創り出し、農業経営者にとって人材の確保と働きやすい環境づくりにつなげる。農業への就労を積極的に後押しすることで、地域農業の主力となる担い手として貢献できる。



ストを多く用いることが効果的だ。作業上の間違いを減らせるという。農業経験のない教職員にも分かるように、栽培に関する基礎知識を紹介する農業用語集や農機具なども掲載している。

自立支援する農業法人がアドバイス

野菜・園芸作業ごと細かく解説

障がいの者の雇用をめざした手引きは、県内五つの特別支援学校や障がいの者の自立を支援する農業法人・埼玉福興興味の新井利昌社長（48）の提言を受けて作成された。特別支援学校の教職員だけでなく、各地の農福連携実践者や障がいの者雇用を検討している農業経営者が活用しやすい内容だ。

手引きは、野菜や園芸の栽培過程をカラー写真付きで作業ごとに作成した。播種、鉢上げ、土づくり、定植、収穫などを細分化し、障がいの者に伝わる体制の構築をめざしている。誰も排除しない組織として、仕事を見つけていく人（精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、触法者、虐待被害者など）を受け入れる。

新井社長は、両親が営んでいた縫製業から専業を転換、知的障がいの者の生活を始めたことで福祉と関わった。2006年、新井社長は個人で農地を借り、新規就農。農業を使う有機質肥料の施用、水耕栽培に将来性を感じ、07年に法人化した。現在、20歳から75歳のハンディを抱えた20人を雇用し、農作業に汗を流す。契約栽培用として約2畝の露地でタマネギやハクサイを作付け、安定収入が見込める水耕ビニール連棟施設（600坪）ではサラダホウレンソウ、ルッコラ、ミズナなどを育て出荷している。

地元資材会社との連携による野菜苗（ネギ）の生産を請け負っている。これが障がいの者の賃金アップにつながっている。新井社長は雇用について「障がいを個性と捉え、自主性を尊重する。作業工程の分割や集約、段取りの変更などで単純作業の繰り返しもできる」とアドバイスする。



新井利昌社長（埼玉福興提供）

生活と就労の場提供

埼玉福興は埼玉県熊谷市で障がいの者に生活と農業就労の場を提供し、長期にわたって農業に関わる体制の構築をめざしている。誰も排除しない組織として、仕事を見つけていく人（精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、触法者、虐待被害者など）を受け入れる。



障がいの者の農業就労後押し

特別支援学校生向けに手引き作成
埼玉県立総合教育センター江南支所



埼玉福興の障がい学生生活から農園に通う

特別支援学校生徒の農業就労に向けた学習支援プログラム（表紙）・①ハクサイを収穫する障がいの者。収穫作業は全員で行っている（埼玉福興提供）